

第4章 都市づくりの課題

人口の将来見通しを踏まえると、今後、人口減少・少子高齢化が大きく進行し、都市を支える生産年齢人口の減少や市街地の低密度化により、都市の魅力や市民生活を支える都市機能が低下することが懸念されます。また、高齢者福祉に係る財源が増大することが想定される中で、公共建築物とインフラ資産の修繕・更新に係る費用が必要となり、効率的な公共投資が求められます。

こうした状況下において、持続可能な都市を形成するためには、以下の課題に対応する必要があります。

都市づくり上の基本的な課題

捉えるべき特性

人口の動向

- 人口減少・少子高齢化が市全域で進行することが想定
 - ・ 2020年人口：127,792人 → 2045年：95,490人
 - ・ 2020年高齢化率：29.9% → 2045年：40.9%

財政の動向

- 公共建築物とインフラ資産の修繕・更新への対応



課題

- ① 若い世代の転入・定住を促進する必要がある。
- ② 効率的な公共投資が可能な都市構造を形成する必要がある。

都市機能の誘導に関する課題

捉えるべき特性

都市機能の立地

- 新瀬戸駅・瀬戸市駅周辺、尾張瀬戸駅周辺が、市内で特に生活利便性が高い
- 瀬戸口駅周辺等も医療、福祉、商業、行政等の多様な施設が集積し、利便性が高い
- 医療、福祉、商業施設徒歩圏の人口密度は類似都市と比較して高い

歴史・文化、観光施設の分布

- 尾張瀬戸駅東側にはやきもの文化に関する観光資源が集積
- ウォークラブルなまちづくりの推進



課題

- ① 概ね市街化区域全体で人口減少が進む中でも、鉄道駅周辺等において、市民の生活利便性を支え、都市の魅力創出する都市機能を維持・確保する必要がある。
- ② 駅周辺をはじめとし、まちの賑わいを創出する必要がある。

居住の誘導に関する課題

捉えるべき特性

経済活動

- 通勤・通学は市外への流出超過
- 市内従業者は市外で居住する傾向

土地利用

- 商業用地が分布する駅周辺から、土地区画整理事業等の良好な住宅地、自然的な土地利用等が残る住宅地まで多様な土地利用による市街地
- 宅地開発地等での住宅の立地、駅周辺での地価の増加
- 利便性の高い名鉄瀬戸線沿線において老朽建物や空き家が集積

災害リスク

- 土砂災害や水害リスクのあるエリアが市街化区域を含む市内各所に分布



課題

- ① 市外への通勤・通学者を含め、生活利便性が高い駅周辺等で、良好な居住環境を確保する必要がある。
- ② 多様な居住環境の活用が必要である。
- ③ 災害からの安全確保が必要である。

移動の利便性に関する課題

捉えるべき特性

経済活動

- 通勤・通学の流出先は、名古屋市や隣接都市へが多い
- リニア開業に向けた名古屋駅周辺での開発等の推進

都市交通

- 利便性の高い都市間交通網
 - ・ 東海環状自動車道や放射状の幹線道路網等による道路網
 - ・ 名鉄瀬戸線・愛知環状鉄道の鉄道2路線を基軸とした公共交通網
- 鉄道・市内基幹バス・コミュニティバスによる体系的な市内公共交通網
- 新型コロナウイルス感染症による、公共交通利用者の減少



課題

- ① 利便性の高い交通網を有効活用する必要がある。
- ② 効率的で使われる公共交通ネットワークを維持・確保する必要がある。